

健康ウオッチング

東陽病院 院長 伊藤 文憲

十二指腸の病気

横芝町のみなさん今日は。

今回は胃に続く十二指腸（小腸の一部）のお話です。食事摂取により食物と胃のペプシンが胃内で十分にかくはんされ、幽門輪を通り、十二指腸に移ります。ここで胆汁や膵液により消化が進み、回腸に移動し体内に吸収されます。回腸と空腸を合わせた部分が長さ6〜7mであるのに、十二指腸は約30cmの消化管ですが消化吸収には大きな影響を与えています。小腸には病変は少ないのでお腹の病気は食道・胃・十二指腸・大腸が病気のほとんどです。

十二指腸は4つに分けられます。胃に続く部分はおむすび状を呈し球部と呼ばれており、潰瘍の好発部位です。胃液の直接攻撃とピロリ菌の影響が考えられています。二番目は下行部と呼ばれ球部から足側に下がっていきます。その中央の前に述べた胆管や膵

実施可能であり、診断が確定します。

潰瘍が更に深くなると穿孔といつて穴があいてしまします。この時はかなりの腹痛を伴い、外科的な開腹手術が必要となります。早期治療がベストです。最近では潰瘍の薬物療法は進歩しており内服にて症状はすぐ軽快・消失しますがきちんと潰瘍の治癒を見届けるまで治療しましょう。

十二指腸では稀に悪性腫瘍が発生することがあります。特に乳頭部は胆汁・膵液・十二指腸液などが混在するため粘膜炎が悪性変化を起し易い部分です。位置的関係から急性膵炎の症状（背部痛や上腹部の不快感）、黄疸が受診するきっかけになります。乳頭部癌は外科的な手術が有効で周囲の膵癌や胆嚢癌に比べて予後は良好です。より小さい段階での発見が大切なことは言うまでもありません。症状の出る前から胆管や膵管の拡張が見られるので早期診断には超音波検査が最も簡便で有用です。

人間ドックは、日帰りです。きまます。
※問い合わせ先
東陽病院 ☎84-1335

文芸

俳句

哀れみて叩きそこなう冬の蝶
冬落暉写し静もる人造湖

浅野 茂子

寒月や車に乗りし吾を逢ふ
底冷えの窓も曇りて人去りぬ

池田 逸子

秩父路の水子地蔵や暮早し
赤提灯秋の灯となりけり

伊藤 敬子

朝よりの教授回診冬の雨
吹かるるやガラスに写る木の葉髪

岡田 雅美

煮こごりや母生涯の土間厨
のさり来る肝胆の友冬帽子

勝又 和徳

日溜りに咲いて静かや石路の花
孫たちの主役の今日は七五三日和

向後 寛

水底の紅葉の中の真鯉かな
薬売り峠路急ぐ秋の暮

佐瀬 輝夫

山峡の夕陽に映ゆる紅葉茶屋
陸奥や窓打つ雨のそぞろ寒

鈴木 繁子

笠間稲荷武蔵お通も菊衣装
紅葉狩り老も忘れて山路ふむ

若梅あやめ

冬かもめ鳴くや入江の舟だまり
山茶花や子犬たわむる庭の先

選者 鈴木 草庵

短歌

少しづつふくよかとなり隣り家の
嫁御は母となる日の近し

真家ふじ子

雪止みて朝日射しゆく山並みは
水墨画のごと深くしづもる

池田 春江

ホテルにて米寿の祝受けながら
目前に逝きし兄思ひあつ

吉岡 信子

澄み透る水面に雫一つ落ち
ゆるゆるゆると輪の広これり

宇井 ちい

閉ざされし店舗の並ぶ裏道を
時止まれるここに歩む

八角 三枝

時季じきの野菜を主菜に暮し来て
飽食の今行く未思ふ

鈴木 やす

沈みゆく夕日の温みまだ残る
耕しし畑の土に掌を置く

佐瀬 初音

瑞瑞しき大根の葉も使ひ切り
友の育てし繕りいたたく

秋葉 悦子

物余る世とはなれども屋根修理の
茅の不足を僧は嘆けり

押尾 輝子

傷みたるカルテの表紙繕ひつつ
患者さんの顔思ひてあたり

西山満里子

老いの身は用事も少なく友も逝き
ひと日ひと日が寡黙に過ぎる

萩原 信一

安らかに今宵寝息をたてる妻
背の痛みの和らぐらしも

永藤 滋

子と孫のほかは訪ひ来る人もなく
喪の正月をひそそ祝へり

選者 斉藤つね子

お詫びと訂正

1月号の俳句の欄
柴太き古き曲がり家菊日和は
梁太き古き曲がり家菊日和の
誤りです。お詫びして訂正します。